きょうと福祉倶楽部だより

2017年　2号

　　ようやく朝夕は涼しく、日の暮れも早くなり ました。
自然の様々な変化の中で季節の移り変わりを感じることができます。
さて、秋と言えば何でしょう、読書の秋、スポーツの秋、
なんと言っても、食欲の秋でしょう！！

年齢を重ねても、噛む力が弱くなってきてもいつまでも
おいしく食事を楽しみたいですね♪

のみこみが難しくなっても美味しく食べたい！

年齢や病気が進むと飲み込みが難しくなることはよくあります。
そうなってしまうと食の形態を工夫して美味しく食べて頂く事が大切です。

ですが元々の食材の原型が分からなくなるような
「ミキサー食」や「キザミ食」では、食材の原型もなくなり、見た目だけで食欲がなくなるという話をよく耳にします。

　どうですか？形はそのままでもとても柔らかいのです。
これならドロドロの食事と違って食欲をそそりますよね。

　わたしたちの事務所でお世話させて頂いている一人ぐらしの
「要介護 5」のお年寄りもだんだんと飲み込みが悪くなってこられました。
いまはこのお弁当を食べていらっしゃいます。
刻み食の時は食が進まず残すことが多かったのですがいまはしっかり食べて下さいます。また、この方の生活習慣では朝食はパン。
　パンは唾液を吸収し食べづらいのです。
　そこで導入したパンは「らくらく食パン」です。

これも「パンがゆ」のようにしっとりしていて
食べやすくできています。
ヘルパーや家族の調理で出来る工夫もありますが
それに加え手軽に使えるこういう食材の
利用も在宅介護の可能性を広げます。

書評

なんとめでたいご臨終

著／小笠原文雄　　小学館

わたしたち介護事業所のしごとは心身が不自由になったお年寄りを最後まで人間の尊厳を失わせずに人生をまっとうして頂くためにあります。

ところが支援する側の閾値をこえると「もう自宅での介護は無理」と住み慣れた家庭にいることを拒まれるという悲劇が散見されます。

もちろんそういう方針を立てた家族や支援者には悪気はありません。

でも、そう宣告された当人の思いはどうでしょうか？一生懸命に生きて、身体が不自由になった途端に居場所を奪われることほど悲しい事はありません。生きる事は高齢者にとっては死を迎える準備期間です。その準備期間が家族にとってもご本人にとっても「よかった」と思えるものにするためのノウハウがたくさん詰まった本がこの本です。

著者は岐阜県で在宅ホスピスの実践をされている小笠原医師。

この本には具体的な癌患者さんやＡＬＳ等の難病患者さんの事例を何例も出して、冷静な医師の視点で家族の不安を取り除く知恵、癌のもたらす疼痛をコントロールする知恵など学ぶべきものがたくさん詰め込まれています。

そして様々な人生の物語の最後は愛する人を失った悲しみに打ちひしがれる家族では無く、愛する人をきちんと見送った喜びと達成感が描かれています。

わたしたちの事務所はこの本が出版される直前に 41 歳の独り暮らしの癌に冒された女性の生活の最後の時期をお手伝いさせて頂きました。

医師も訪問看護師もわたしたちも
全力を尽くしました。
しかし、この本にもう少し早く出会えれば
もっと彼女に良い終末期の人生を提供出来た
のではと悔やんでいます。

介護は人生の最後を豊かにするためでも
あります。お家で無くなった人の前で家族と医師、
スタッフが笑顔でお見送りをする
数々の奇跡の物語に感動です。

老人医療費が安い町

かつて岩手県に沢内村という寒村がありました。

奥羽山脈の山中にあった産業にも乏しい村でした。

当然ながら村にも村民にもお金はありません。

貧しい村にはお医者さんも来てくれません。商売にならないからです。

村民が医者に診てもらうのは死亡診断書を書いてもらうときだけ、こんな貧しい村でした。

ですから、乳幼児の死亡率は全国一。お年寄りも長生き出来ないという悲劇の村です。

その村を変えたのは村長になった深沢晨夫さん。

深沢さんはこどもがどんどん死んでしまう村を変えたかった。その悲劇をくい止めるために乏しい予算から中古のブルドーザーを購入、冬でもお医者さんがいる盛岡までの道を確保しました。村立診療所も作りました。でも派遣される医師は大学でも厄介者。役に立ちません。深沢さんは遠く仙台市まで東北大学にまともな医師を派遣してもらうため大学に通い続けました。そして確保した医師とともに村の健康を守る仕組みをつくったことで村は大きく変わりました。

村民一人一人の健康状態をチェックできる体制を作り、医療にお金が無くとも気兼ねなく医療にかかれる仕組みを作りました。

この仕組みを国や岩手県は地方交付税を減らすなどの妨害までしてやめさせようとしました。それでも「わたしたちは憲法を守ってる」「国は後からついてくる」と深沢さんは怯みません。　そしてやり遂げたのが老人医療の無料化です。その村は町村合併で無くなりました。それでも深沢さんの遺志は合併された西和賀町に引き継がれ、非課税世帯の方は医療費の負担無く医療にかかることが出来ます。

お金が無くとも安心安全に暮らせる町うらやましいですね。

そしてそういう国を作りたいものです。

kwc　有限会社　おとくに福祉研究所
きょうと福祉倶楽部
〒617-0824
長岡京市天神４丁目7-12　ハイツ東台101号
TEL　075-958-2560
FAX　075-957-2808
E-mail　kyoto-care@club.email.ne.jp